

日本蘚苔類学会 第45回 屋久島大会に参加して

栄田久美

Kumi EIDA

環境ソリューション工学専攻修士課程 1年

1. はじめに

2016年8月29日～31日に屋久島町安房総合センターで開催された日本蘚苔類学会第45回屋久島大会に参加し、「大台ヶ原におけるミヤマクサゴケとイワダレゴケ周囲に生育する蘚苔類の種組成」という題目でポスター発表を行った。

2. 発表内容

2.1 研究背景

奈良県と三重県の県境に位置する大台ヶ原山は、かつては鬱蒼としたトウヒ林であったが、様々な原因により現在ではトウヒ (*Picea jezoensis* ver. *hondoensis*) の倒木更新が困難な状態である。倒木更新についての研究は数多くあり林床の蘚苔類が重要視されているが、林床の蘚苔類の研究は数が少なく未解明な点が多い。

将来、大台ヶ原での倒木更新を促進する蘚苔類林床の管理を目指す上で、倒木上の蘚苔類の現状を調査する必要があると考えた。

今回は、トウヒが成長していく過程で重要と思われるミヤマクサゴケ (*Heterophyllum affine*) とイワダレゴケ (*Hylocomium splendens*) を対象にし、それらと同所的に生育する蘚苔類についてまとめることを目的とした。

2.2 方法

2015年10月に大台ヶ原の東大台地域にある3地点(日出ヶ岳前、中道沿い、苔探勝路)の防鹿柵内で、倒木上及び根株上を中心に蘚苔類の被覆状況を調査した。ミヤマクサゴケとイワダレゴケを採取し、蘚苔層の厚さ、蘚苔類の含水率、倒木の腐朽具

合として倒木の硬度を測定した。採取したコケから半径0.5m範囲で、確認できた他種の蘚苔類の位置を図として描き、組成表としてまとめた(表1)。

2.3 結果と考察

表1より、ミヤマクサゴケ周囲には、シッポゴケ科 (*Dicranaceae*)、イトハイゴケ (*Hypnum tristoviride*)、スギゴケ科 (*Polytrichaceae*) など計9種を確認した。イワダレゴケ周囲には、スギゴケ科、シッポゴケ科、イトスゲ (*Carex pisiformis*) など計7種を確認した。

ミヤマクサゴケはイワダレゴケより蘚苔層の厚さが薄く、周囲への日陰効果が少ないと思われた。また、含水率が高いため、周囲の蘚苔類の種数がイワダレゴケより多いと考えられる。イトハイゴケは調査地点の22.7%で確認されたが、イワダレゴケ周辺では0%、ミヤマクサゴケ周辺では37.5%と比率が高くなり、ミヤマクサゴケに親和性があると考えられる。

ミヤマクサゴケ周囲にイワダレゴケを7.5%、イワダレゴケ周囲にミヤマクサゴケを11.5%確認した。倒木の硬度から、ミヤマクサゴケは腐朽があまり進んでいない倒木上に多く、イワダレゴケは腐朽が進んだ倒木上に多かったことから、時間系列とともに倒木上では、ミヤマクサゴケの上層にはイワダレゴケが遷移すると思われる。

今後、対象種周囲に生育する蘚苔類についての被度や生育環境を定量的に調査し、倒木上の蘚苔類の遷移の検討、特に倒木上への蘚苔類の誘導についてより良い検討をしていきたい。

3. ポスター発表を終えて

日本蘚苔類学会の大会への参加は今回で2回目だったが、ポスター発表は今回が初めてだった。

自身の研究を様々な人に伝えることで、研究の意義や課題を改めて見直すきっかけとなった。また、人間関係や議論の輪が広がり、新しい知識や技術を得ることができた。発表後も深く議論することがで

表1 基物上の蘚苔類の種組成

番号	基物	ミヤマクサゴケ	イワダレゴケ	イトハイゴケ	イトスゲ	地衣類	シッポゴケ科	スギゴケ科	タチハイゴケ	ハイゴケ	フジハイゴケ	ヨシナガムチゴケ
21	倒木	○										
28	岩	○										
35	倒木	○										
37	倒木	○										
2	倒木	○		○								
8	倒木	○		○								
17	倒木	○		○								
27	倒木	○		○								
34	倒木	○		○								
38	倒木	○		○								
40	倒木	○		○								
6	倒木	○		○			○					
9	倒木	○		○			○					
31	倒木	○		○			○					
11	倒木	○		○		○	○		○			
13	倒木	○		○		○	○					
15	倒木	○		○		○	○					
18	倒木	○		○				○				
3	倒木	○				○		○				
4	倒木	○					○					
10	倒木	○					○					
12	倒木	○					○					
14	倒木	○					○					
19	倒木	○					○					
22	倒木	○					○					
24	倒木	○					○					
25	倒木	○					○					
32	倒木	○					○					
30	倒木	○					○					○
16	倒木	○					○					
29	倒木	○					○					
33	根株	○					○					
39	倒木	○					○					
1	倒木	○					○		○			
7	岩	○					○		○			
5	倒木	○					○		○			
36	倒木	○					○		○			
23	倒木	○	○	○			○		○			
20	倒木	○	○	○			○		○			
26	倒木	○	○	○			○		○			
66	倒木	○	○	○			○		○			
51	倒木	○	○	○			○		○			
55	根株	○	○	○			○		○			○
65	倒木	○	○	○			○		○			○
44	岩	○	○	○			○		○			
49	根株	○	○	○			○		○			
53	倒木	○	○	○			○		○			
62	岩	○	○	○			○		○			
63	岩	○	○	○			○		○			
64	根株	○	○	○			○		○			
46	岩	○	○	○			○		○			
45	根株	○	○	○			○		○			
54	倒木	○	○	○			○		○			
56	倒木	○	○	○			○		○			
57	倒木	○	○	○			○		○			
50	岩	○	○	○			○		○			
47	岩	○	○	○	○		○		○			
43	岩	○	○	○	○		○		○			
58	岩	○	○	○	○		○		○			
41	岩	○	○	○	○		○		○			
48	岩	○	○	○	○		○		○			
52	岩	○	○	○	○		○		○			
59	岩	○	○	○	○		○		○			
60	岩	○	○	○	○		○		○			
61	岩	○	○	○	○		○		○			
42	根株	○	○	○	○		○		○			
全体の数	66	40	29	15	9	4	36	21	10	3	1	3

き、有意義な時間を過ごすことができた。

4. おわりに

今回のポスター発表では、多くの方が自身のポスターを見てくださり、説明を聞いてくださり、質問や助言を頂戴した。

正直、自身の研究内容をポスターにまとめる自信がなく、諦めようとしていた時期もあったが、今で

は本当にポスター発表を行って良かったと思っている。たくさんの方に支えられていることを改めて実感した。今回の経験を励みに、今後の研究活動に取り組んでいく。

最後になったが、熱心にご指導いただいた横田岳人准教授、横田研究室の皆様がこの場を借りて御礼申し上げます。